

農楽里

norari

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン



2025年秋号

Vol.57
Free



テーマ

ともに紡ぐ農村の営み

INDEX

テーマ

ともに紡ぐ農村の営み

棚田に外から風を吹き込む

四ヶ村の棚田	大蔵村	4
蔵王上野の棚田	山形市	6

地域の農業を守りたい

株式会社アグリラボ	村山市	8
-----------	-----	---

地域を守るための取り組み～田んぼを活用した治水対策～

農地・水・環境保全組織いなばエコフィールド協議会	鶴岡市	10
--------------------------	-----	----

天蚕 積み重ねた手間が唯一無二の輝きに

しらたか天蚕の会	白鷹町	12
----------	-----	----

水土里ウォーク

せせらぎで彩る高松堰	寒河江市	14
------------	------	----

やまがたの食

アケビの魅力新発見!!	朝日町	16
-------------	-----	----

読者プレゼント		19
---------	--	----



表紙

「八十八の手間隙かけて」

(撮影場所：山辺町)

第32回「やまがた農村フォトコンテスト」

WEB作品の部最優秀賞

齋藤 千恵美 さん

農楽里 norari

元気な農山漁村をつくっていききたい。農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい。

農楽里(のらり)は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、すでに参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する手づくりの情報誌です。

norariは、山形県ホームページから
もご覧いただけます。(右記コードからア
クセスできます。)



「つや姫」は山形県が十年の歳月をかけて開発した自慢のお米です。
際立つ「白さ」「つや」「甘み」が特長です。
全国の皆様、是非お召し上がりください。
また、贈り物にもご利用ください。
今年も「つや姫」をどうぞよろしく願っています。

やっぱり つや姫ね



山形「つや姫」「雪若丸」ブランド戦略推進本部 本部長

山形県知事 吉村美栄子

四ヶ村棚田サポーター制度

「つなぐ棚田遺産」に選定され、村独自のイベントに取り組んでいる四ヶ村も例外ではなく、高齢化や後継者不足による耕作放棄地の拡大が懸念されている。『四ヶ村棚田サポーター制度』は、耕作放棄地の拡大という切迫した問題を解決すべく、地区外に住むサポーターの方々と協力しながら、四ヶ村の棚田及び棚田米の魅力を発信していくための取り組みで、地元の生産者により設立された「大蔵村棚田米生産販売組合」が中心となって実施している。

年会費2,000円でサポーターに登録すると、棚田米をお得に購入できるほか、四ヶ村で開催される様々なイベントに参加できる。イベントの内容としては、5月下旬の田植え体験、8月上旬（はたる火コンサートと同日）の生育状況確認、9月20日頃の稲刈り、11月下旬の棚田収穫祭などがある。

サポーターは現在、全国各地に30名程おり、特に仙台市のような都市部からの参加が多く見られる。イベントにはサポーター以外にも、村の関係者や大学生なども訪れており、地域や世代を超えた交流が生まれ、大変な賑わいを見せる。



普段農業に触れる機会がないので、農作業体験は新鮮で楽しかったです。
(東京都 女性)

サポーター
の声

知人から四ヶ村を教えてくださいました。
10年以上前から農作業体験に来ています。(宮城県 男性)

大学生と話したり、稲刈り後においしいものを食べたりするのが楽しみです。
(山形県 女性)

組合長の思い



大蔵村棚田米生産販売組合
組合長 須藤 敏彦さん

棚田での米作りは、平地の何倍もの手間がかかります。そこで、他産地との差別化を図り、四ヶ村の棚田のお米に独自の付加価値をつけるために生産組合を立ち上げました。組合の活動の一環として、村と協力し、普段農業に触れる機会の少ない方でも農作業を体験できるサポーター制度を始めました。サポーター制度が、みなさんが農業やお米、棚田に興味を持つきっかけになってくれれば嬉しく思います。

●お問い合わせ 大蔵村役場 産業振興課 農村整備係 TEL : 0233-75-2105 (内線 231・232)

たなだ 棚田に外から風を吹き込む



～サポーター制度で地域の魅力を発信～

しかむら 四ヶ村の棚田(大蔵村)

棚田とは

棚田とは、山の斜面に築かれた階段状の水田である。棚田の役割は、米作りだけではない。階段状の地形は、雨水を貯め、洪水のリスクを低減するダム役割や、土砂の流出を抑え、国土を保全する役割を果たす。さらには、豊かな生態系を育むなど、多面的な機能を有している。

棚田を管理する地元の集落は、深刻な問題に悩まされている。棚田での作業は平地と比べて多くの労力が必要であり、それに高齢化や後継者不足が相まって、担い手の確保が困難となっている。また、耕作放棄地の拡大により、多面的機能の喪失や野生動物の行動範囲の拡大なども問題となっている。棚田を未来に引き継ぐためには、地域住民だけでなく、私たち一人一人の関心と協力が不可欠である。棚田への関心を集め、保全していくために、県内ではどのような取り組みが進められているのか、2地域の事例を紹介する。

四ヶ村の棚田

四ヶ村は大蔵村の中心部より南に位置した山間地域である。その名のとおり、4つの集落の総称であり、「豊牧」、「滝の沢」、「沼の台」、「平林」で構成される。「四ヶ村の棚田」は、農林水産省により、「つなぐ棚田遺産」に選定されている。

地域のイベントとして、毎年8月に「四ヶ村棚田ほたる火コンサート」が開催されており、棚田とホタルの光が創り出す非日常的な空間で、演奏会を楽しむことができる。



企業 × 祭り

7月には、“夏祭り”を開催。棚田地域振興協議会の「祭りで地域を盛り上げたい」という意志に賛同した地元企業が協力し、様々な出店を展開。住民全体で作る地域に根差した祭りとなっている。



棚田 × 祭り

8月には、急勾配の棚田の傾斜を逆にとり“流しそめん祭り”を開催。近年は、コロナ禍の影響があり、開催を見送っていたが、今年は6年ぶりに開催！

延べ、480人が参加し、大盛況となった。



そば × 祭り

12月には、棚田で育てたそばを使い、“新そば祭り”を開催。

上野の生産組合の方自らが生産からそば打ちまで一貫して作ったそばを味わえるのが醍醐味。



持続可能な地域を目指して

祭 棚田を中心とした祭りを実施してみよう

祭りなどの地域活動に参加したことがきっかけで、上野の魅力にひかれて、毎年のように移住者や新規就農者がいます。地域の草刈り作業に移住者や新規就農者の方も参加してもらい、住民全員が上野の景観や暮らしを守るという意識を共有できているのではないかと感じています。

祭 今後の展望

様々な取り組みを行っていますが、目的は上野に住む人や関係者が元気で楽しく生きることです。そのことが、持続可能な地域につながると考えています。これからも企業や地区外の住民とも連携しながら地域のイベントを続け、元気で楽しく生きられる地域を作っていきたいです。



蔵王上野棚田地域振興協議会
会長 池野 勇男さん



蔵王上野町内会
総代 山口 三千夫さん

棚田に外から風を吹き込む



～棚田を中心とした祭りで地域を活性化～ 蔵王上野の棚田（山形市）

協同で地域を守る

蔵王連峰のふもとに位置する山形市の蔵王上野地区には、「つなぐ棚田遺産」に選定されている「蔵王上野の棚田」がある。
棚田の面積は地区全体の農地の約半分を占める52ha。標高250m以上の高地に農地が位置しており、各水田の高低差が大きいいため、畦畔の草刈りに苦慮してきた。

厳しい営農条件の中でも、地区の農家は農地を守り続けてきた。その中心となっているのが、中山間直接支払交付金制度の集落協定をもとに組織された「蔵王上野棚田地域振興協議会」だ。協議会が中心となり、農家ではない地域住民も巻き込みながら、協働で農道や水路の保全、草刈りなどの維持作業に取り組んでいる。

祭りで元気な地域づくり

協議会の活動のなかで、地区内外の交流を目的として長年続けてきたのが「祭り」だ。地区には、「夏祭り」、「流しそめん祭り」、「新そば祭り」という3つの大きな祭りがある。祭りには、地区内の農家・非農家はもちろんのこと、地区内外の企業や行政など様々な組織が参画し、地域を盛り上げている。

協議会の池野会長は、「将来のことを考えることも大事ですが、今いる人がどれだけ元気でいられるかが、最も重要。祭りが元気な地域づくりの一助になれば良いと考えています」と話してくれた。

上空から見た蔵王上野の棚田



地域の農業を守りたい



村山市 株式会社アグリラボ



ほ場整備事業をきっかけに法人化

村山市の農業法人「株式会社 アグリラボ」は地域の農家が年々減少する中、積極的に農地を受け入れて規模拡大している。もともとは家族で農業をしていたが、経営規模を拡大させることも、地区外からの人手も確保するために、平成31年1月に法人化した。現在は、社員7名とパート6名程が勤務している。西郷名取地区のほ場整備事業(※1)をきっかけに、高収益作物の面積も増やし、現在は水稲34ha、にんじん3ha、きゅうり0.7ha、なすなどの野菜の苗7万株及び飼料用米を栽培している。さらに、鉄コーティングした種もみの直播栽培や自動給水栓の試験的導入など稲作の先進的な取り組みにも挑戦している。



事業の効果を実感

ほ場整備事業では、地下かんがい施設(※2)が整備された。株式会社アグリラボ代表の柴田さんによると、地下かんがいは効率的に水やりができるため、特に畑作に有効とのこと。また、田んぼが大きくなったことによって、大型機械を導入でき省力化につながった。さらなる規模拡大や、限りある水を有効活用するために、農地の大区画化や水路のパイプライン化が地域により普及することを柴田さんたちは待望んでいる。



(※1)田畑を大きな区画に整備するなど、大型機械の利用を可能にし、生産性の向上などを図る事業 (※2)埋設管によって地下から作物へ水を供給する施設

園芸作物への取り組み

きゅうり栽培は、柴田さんの先代から行っており、ノウハウを引き継いで栽培している。地下かんがいは、特にきゅうり栽培への効果が大きいとのこと。

にんじん栽培は、ほ場整備事業を機に5、6年前に始めた。きゅうりはほとんどが手作業なのに対し、にんじんは箱詰め以外の播種、除草、収穫、選果の作業を機械化できるのが利点である。

それぞれ特色ある作物を組み合わせてながら、先を見据えた農業に取り組んでいる。



地域を守っていく

株式会社アグリラボでは、「一度荒れてしまった農地をもとに戻すのは難しい。たとえ条件が悪い田でも先人たちが代々守ってきた大切な農地である。」という思いで、地域の離農者から農地管理の依頼があれば、優劣をつけずに受け入れている。

人口が減少する中、農業を続けるのは大変なこと多いが、農業には自分次第で物事を決められる魅力がある。だからこそ、意地とロマンで続けていきたいと柴田さんは語る。

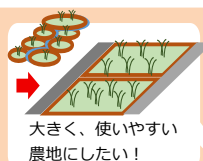


(株)アグリラボ 代表 柴田清志 さん

事業でつくる新たな地域の姿

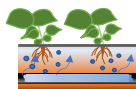
ほ場整備は、地域を理想に近づけるための手段の一つ！

地域の未来について具体的に地域住民皆で話し合い、地域の目指すところを決める。



大きく、使いやすい農地にしたい！

地下かんがいを導入し園芸作物に挑戦したい！



農業体験会をしたい！

加工品を売りたい！

地域の理想に近づけるために必要な整備が決まったら、事業申請、工事の実施へ。



整備された農地で

夢を実現！



『田んぼダム』実施中 ～農地・水・環境保全組織 いなばエコフィールド協議会～

いなばエコフィールド協議会は県内でも先駆けて田んぼダムに取り組んでおり、平成 24 年度から開始して今年で 14 年目を迎える。齋藤豪運営委員会会長に実施にあたってのポイントを聞いた。

☆大切にしていること

- ・農家が主役
- ・協力する農家の負担にならない

農家は日ごろから田んぼの水管理を行っています。農家の意見を参考にして、普段の水管理と田んぼダムの水管理を同時に行えるように水位調整板を改良することで、農家の作業負担を減らせるようにしました。

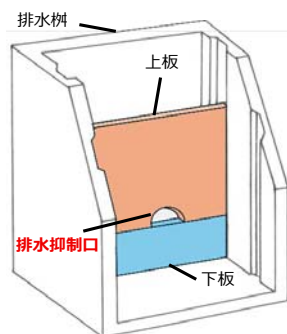


運営委員会会長
齋藤 豪 さん

☆田んぼダムに興味を持った方へ

- ・田んぼダムを実施したことによる営農上の問題は今まで一度もない
- ・田んぼダムは広い面積で取り組むことで効果が出る

長年、協議会で実施してきて、畦畔が崩れた、稲の成長や品質が低下したといった被害は一度もありません。田んぼダムは流域全体で取り組むことが重要です。この先も地域や大切なものを守るために田んぼダムの導入を考えてみてください。



協議会で使用されている排水樹と
水位調整板の図



水田に設置されている排水樹と
水位調整板



田んぼダムに雨水がたまっている様子

地域の取り組みを支える因幡堰土地改良区

いなばエコフィールド協議会は、鶴岡市藤島地域を中心とする約 1,220ha の農地を対象に、田んぼダムだけでなく、農地の保全に地域と一体となって取り組んでいる。

事務局を担う因幡堰土地改良区は、「地域に必要とされること」を第一の理念としており、様々な地域活動を通じて住民との信頼関係を築き、協議会の活動を支えている。地域の協力が、持続可能な農業と豊かな地域づくりの力になっている。



いなばエコフィールド協議会の区域

【田んぼダムに関するお問い合わせ】

山形県農林水産部農村整備課、各総合支庁産業経済部農村計画課まで

山形県の田んぼダム
普及動画はこちら⇒



地域を守るための取り組み

～田んぼを活用した治水対策～

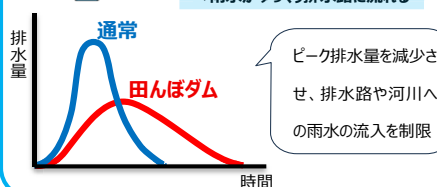
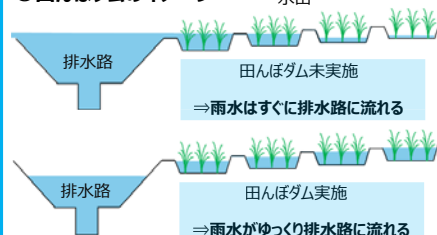


田んぼダムの仕組み

○田んぼダムに必要な取り組み

- ・畦畔の保全
- ・水田の排水樹に水位調整施設を設置

○田んぼダムのイメージ



水田を利用した防災・減災への取り組み
近年大雨や突発的な豪雨が頻発しており、それに伴う河川氾濫などの発生が増加している。このような大雨や豪雨災害に対して、流域治水として現在「田んぼダム」が注目されている。
田んぼダムとは、田んぼの排水口に排水する量を抑制するための堰板や小さな穴の開いた調整板等の器具を設置することで、雨水をゆっくりと排水し、下流域の氾濫被害を小さくする取り組みである。この取り組みを拡大するには農家の協力が必須であるが、「設備の付けが簡単で即効性がある」「安価な費用で防災・減災対策に取り組める」等の利点があり、水田面積の大きい山形県で実施することで、大きな効果が期待できる。山形県では、令和 6 年度末時点で、農家等で構成される 60 の団体等において、約 4,700 ha (県内の水田全体の約 6%) の水田で取り組まれている。



積み重ねた手間が 唯一無二の輝きに

てんさん
天蚕

元気に木の葉を食べる天蚕

白鷹町天蚕のはじまり

白鷹町の北西に位置する深山地区は古くから養蚕業が盛んであったが、時代とともに下火になる一方であった。そこで新たな生業の創出と地域づくりのために、養蚕業のノウハウを活かして県と町の支援を受けながら天蚕の飼育を開始した。

しらたか天蚕の会 創設

白鷹町で天蚕の飼育が始まったのは昭和63年。当時は「白鷹町天蚕推進会議」を組織して生産者部会で繭を生産し、町内の織物業者に引き取って貰って、織物にしていた。しかし反物市場の縮小や関係者の高齢化等の問題に直面することになる。そこで平成19年に「しらたか天蚕の会」を組織し、飼育から織布まで一貫して行うようになった。

一般的な蚕との違い 種類

通常養蚕業で飼育される蚕はクワコという蛾を家畜化した種である。一方で天蚕は野生に生息するヤマムギガという蛾の一種である。天蚕の幼虫は緑色で、その繭も緑色となる点が蚕との大きな違いである。

餌

蚕の餌といえば桑の葉のイメージだが、天蚕はクヌギやミズナラの葉を食べる。しらたか天蚕の会では、これら飼料も栽培している。

糸

天蚕と一般的な蚕の糸の違いは、繭の色に由来する糸の色の違いだけではない。天蚕の繭から紡いだ糸は光沢と艶があり、一般的な蚕の糸より希少性が高いため単価も高い。一方で天蚕の糸は染まりにくく、紡いだ糸が締まりにくいため扱いにくいという短所がある。

天蚕を探してみよう！

幼齢期の天蚕！匹
繭になった天蚕！匹
がそれぞれ隠れているよ！

手間が生む緑の宝

この天蚕、飼育するのがとても大変である。天蚕60匹は一日当たり木一本分の葉を食べる。飼料不足とならないように木々を適切に管理し、繭が多い年には飼育数を調整することもある。外敵は天蚕を食べるハクビシン等の動物やカエル、さらに飼料の競合相手となるシャクトリムシ等がいる。発見次第の駆除や外敵との生育期をずらすといった工夫が必要になる。

また、一反(着物一枚分。一反は約幅36cm、長さ12m)作るには、繭が5,000個必要になり、2年から3年かかることもある。こうして手間をかけた反物は、町の商工観光課を通して銀座に店を構える着物店に販売している。



何かを産み出す
ということは
面白い！
楽しい！

しらたか天蚕の会
守谷さんの話

天蚕の幼虫の成長を見守り、

繭づくりから織物生産に関わることに大きな喜びを感じています。試行錯誤の中で得られる学びが、天蚕やそれに関わる人とのつながりを深める原動力となっています。天蚕繭の生産という仕事は、私にとって楽しく喜ぶのある仕事です。

お問い合わせ

白鷹町役場 商工観光課(観光交流係)

TEL : 0238-85-6126

しらたか天蚕の会(フェイスブック)

しらたか天蚕の会の

日々の活動はこちらから





第23回せせらぎフェスティバル in 高松堰

高松堰では毎年海の日に「せせらぎフェスティバル in 高松堰」が開催されており、今年は7月21日（月）に開催された。今年で23回目の開催となるこのフェスティバルは、盛りだくさんの企画で賑わいをみせた。無料で誰でも参加できるため、来年のせせらぎフェスティバルには、今年参加した方も参加していない方も是非参加してみたいだろうか。



川越さんへインタビュー

魚のつかみ取りやチューブスライダーなどで約500名がお祭りを満喫しました。地元の方による納豆餅やかき氷の振る舞いも好評で、参加していただいた方の笑顔あふれるお祭りとなりました。

今後は、伝統的な地域資源であるこの高松堰の魅力をお祭を通して広く発信していけるよう広報等に力を入れて活動していきたいです。



水と里ネット寒河江川
寒河江川

総合司会を務めた
寒河江川土地改良区
総務主事 川越さん



お問い合わせ
寒河江川土地改良区

〒991-0005 山形県寒河江市中河原 222-2
TEL : 0237-86-5112



高松堰の歴史

高松堰は、寒河江市の南西部、寒河江川と最上川に囲まれた平野部に位置する市域最大の用水堰だ。高松左門が現在の頭首工より約700m下流に設けたものが始まりとされる。下流地域は、足下に最上川がありながら用水不足に悩んでいたため、慶長14年（1609年）に、菊池藤五郎が卓越した測量技術により、全長8,000mに及ぶ用水路を完成させた。これが現在の高松堰幹線用水路の原型であり、寒河江西方面の耕地開発が一段と進展するきっかけとなった。

昭和15年に寒河江川の大洪水が発生し、高松堰、新田堰が大きな被害を受けた。その際に大規模な改修が必要となり、高松堰普通水利組合と新田堰普通水利組合で協議した結果、合同頭首工とすることとなった。昭和16年に着手した後、幾多の困難を克服して、昭和21年に新しい高松堰が誕生した。

用水路沿いの遊歩道（ふれあいの小道）が高松小学校の持久走コースとして利用されるようになると、児童と地域住民による除草・清掃活動が始まり、「グラウンドワーク高松堰」を中心に、活動が行われるようになった。

グラウンドワーク

高松堰とは…

平成11年に「グラウンドワーク高松堰」が発足。寒河江川土地改良区の中心的な役割のもと、5つの町内会の農家・非農家を問わない地区住民約330名で組織され、年に2回清掃活動や植栽活動を行っている。



アケビの魅力新発見!!



朝日町とアケビ



山形県はアケビの全国生産量の約9割を占める一大産地であり、朝日町は県内でもトップの生産量を誇る。県の中央部に位置する朝日町では面積の76%を原生林野が占め、最上川両岸に沿った河岸段丘が広がる。そのため果樹の栽培に適した地形になっており、リンゴの生産が有名なほか、世界で唯一の「空気を」を御神体とする「空気神社」があることでも知られている。

アケビは多年生の植物で全国に自生している。約30年前に山から採取したアケビを関東地方に出荷したところ、その質の高さが高く評価されたことが山形県での生産拡大のきっかけとなった。現在朝日町のアケビ栽培は、ブドウ棚等を利用して生産を行っている場所もあるそう。

皮まで食べる山形流!

アケビのサイズは、地元では肉詰めなどの料理に使いやすい小ぶりなサイズが好まれている。一方、関東や関西などの出荷先では主に中身の果肉のみを食べるため、大きなサイズの需要が高く、高値で取引される。実は全国的にはこの果肉のみを食べる食べ方が主流で、皮を料理してまるごと食べる山形県は珍しい食文化を持っているのだ。



開発秘話

アケビの魅力に着目しアケビアーの開発を主導したのは、朝日町地域おこし協力隊OBの田岡知曉さんだ。田岡さんは協力隊の活動の中でアケビと出会い、交流のあった米沢のビール醸造所と協力してクラフトビール造りにチャレンジした。アケビ農家さんや地元の方も交えながら、アケビを活かしたビールを目指して試行錯誤を重ねていった。

田岡さんは協力隊の任期が満了した現在も、朝日町民だからこそこの視点で、動画制作・広報などの仕事を請け負い、朝日町から山形を盛り上げている。

編集委員の感想



実際にグラスに注いでみると、液色はやや濃いめで、香りはホップの主張が控えめです。口に含むと麦芽の香ばしさと、アケビ由来と思われるフルーティーさを感じます。さらにしっかりとした苦みがある、アケビの存在感をはっきりと感じられる、これまでに味わったことのないビールに仕上がっていました!



アケビアー AkeBeer



朝日町特産のアケビの魅力を発信するため、新たに開発されたのがアケビのビール『アケビアー』だ。ビールのコンセプト決定には約1年をかけ、ビールの種類は沢山のの人に親しみを持ってもらいたいという想いから、多くの人が飲み慣れているラガーが選ばれた。使用しているアケビは皮・果肉のすべてを余さず使っている。皮は独特のほろ苦さを生かし、果肉の甘みや香りと合わせてバランスをとり、アケビ本来の風味を余すことなく感じられるのが特徴となっている。



(朝日町Instagram)



(田岡さんInstagram)



非公式 PR キャラ

桃色ウサビ

アケビアーは朝日町のふるさと納税の返礼品(12月下旬から再販予定)となっているほか、道の駅あさひまちななどの町内小売店で購入することができる。

読者プレゼント

本誌 6〜7 ページで紹介した「蔵王上野の棚田」で作った棚田米（5 kg）を 2 名様にプレゼント。

ご応募は、下のアンケート回答フォームから回答いただくか、応募はがきに記入してお送りください（官製はがき可）。本ページは、山形県ホームページからも印刷できます。

アンケートの回答フォームはこちら



※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

※ご応募によって得られたアンケートの情報は、個人情報を含まない形で誌面への公表等に使用させていただく場合があります。

※プレゼントの応募締切は、2025 年 12 月 31 日です。

山形県ホームページから norari のバックナンバーをご覧いただけます。右記コードからアクセスしてください。



『蔵王のふもと

上野の棚田米』



2 名様

※写真はイメージです。

プレゼントと写真のデザインが異なる場合がございますのでご了承ください。

地域活動情報をお寄せください。

85円切手をお貼り下さい

〒990-8570
山形市松波2-8-1
山形県 農林水産部 農村計画課
norari 事務局 行

お名前

ご住所 〒

お電話番号

読者プレゼント希望欄

☐ プレゼント希望の場合は、「レ」を付けてください。
応募締切は、2025年12月31日（消印有効）です。

アンケートにご協力ください

- Q 1 本誌の内容はいかがですか？
☐ おもしろい ☐ 普通 ☐ つまらない
- Q 2 皆さんの活動や産品で本誌に掲載してみたいものがありましたらご記入ください。
- Q 3 本誌に関するご意見をご記入ください。

のらり
親父の
つぶやき

『独り言』

スーパーで、私の前で買い物をしている老人が「これは旨そうだ。」とか「高くなったなあ〜。」などと独り言を言って陳列された食品を見ている。老人はよく独り言を言うとい前から思っていた。何故歳を取ると独り言を言うんだろう。知らずに言ってしまうのか。誰も話し相手がないからなのか。ああはなりたくないな。そんなことを思っていると、後ろにいる孫が妻に話しているのが聞こえた。「おじいちゃん また独り言言ってる。」



冬号は 1 月下旬発行予定！

発行 norari 編集委員会
〒990-8570 山形市松波 2-8-1
山形県 農林水産部 農村計画課
「norari 事務局」Tel 023-630-3077
協力 山形県農村振興技術連盟
山形県土地改良事業団体連合会

やまがたの 棚田 スタンプラリー 2025

スタンプラリーに参加して
棚田地域の素敵な賞品を当てよう！

7/1
(火)

11/30
(日)

棚田を巡って
写真を撮ろう！

おいしい棚田米も
食べてみてね！

5棚田以上を巡って、当たる
おこめ賞（20名様）
「やまがたの棚田米」5 kg

9棚田以上を巡って、当たる
棚田げんき賞（10名様）
棚田地域の特産品 ¥5,000 相当の品

棚田完全制覇！もれなくもらえる
コンプリート賞
プレゼント内容は期間中に公開予定！

棚田の写真を投稿して当たる
フォトジェニック賞（5名様）
棚田地域の特産品等 ¥3,000 相当の品
※応募いただいた写真は、今後の棚田振興の為に活用させていただきますので、写真の使用にご了解いただける方に限ります

スタンプラリーの参加方法

スマホで棚田スタンプラリー
特設サイトを
チェック！
(県 HP より)

棚田へGO！

現地でサイトを開き
スタンプ取得
Web閲覧履歴
は削除しない
でね！

スタンプがたまったら
特典に応募
当たると
いいな♪

フォトジェニック賞

#やまがたの棚田スタンプ
ラリー2025 で Instagram
に投稿しよう

●棚田を巡る場合は、農業者や地域住民の通行等の支障とならないよう配慮願います。

やまがたの棚田スタンプラリー

やまがたの棚田に関する HP にいますぐアクセス！

山形県農林水産部農村計画課 中山間・棚田振興担当 TEL 023-630-2495 FAX 023-630-2509

元気な農村(むら)づくり総合支援事業 地域づくりを応援します



写真：田茂沢・蒲沢地区ワークショップ

地域づくり ワークショップ のススメ



発展の階段

- 動き出すこと
- 現状を理解すること
- 自ら地域を発見すること
- 参加したくなること
- 先ずは関心をもつこと

持続した地域農業の将来像を描く

金山町南部に位置する田茂沢・蒲沢地区は、一級河川入田茂沢川と本蒲沢川の両岸に拓けた中山間地域の集落です。

地区では、将来の地域農業のあるべき姿を明らかにする「地域計画」、それを実行に結ぶ基盤整備に向けた計画づくり、そして中山間直接支払の集落戦略づくりを同時並行してワークショップ形式で実施しました。

地域の老若男女が参加したワークショップでは、農業以外にも自然や景観や暮らしの全般にわたって、現地調査を通して現状を知り、それがどうなったら良いのかを話し合いました。話し合いを通して、「自然の豊かさ、水のきれいさ、生物の多さに改めて気づいた」、「今回の取組みで地区の現状や課題がより一層明確になった」などの感想が寄せられました。併せて「子どもや若い人たちの考えや前向きな提案が聞けた」、「いろいろな世代と話ができて良かった」など、各々の集落内、両地区間での世代間交流の場にもなりました。

「地域で話し合いが持たたいが、誰を相手にどうしたらいいかわからない」とお悩みの皆さん、下記窓口までお気軽にご相談ください。



現地調査



探検マップ作成

お問い合わせ先 村山総合支庁 農村計画課 TEL 023-621-8389 最上総合支庁 農村計画課 TEL 0233-29-1339
置賜総合支庁 農村計画課 TEL 0238-26-6056 庄内総合支庁 農村計画課 TEL 0235-66-5549
県庁農村計画課 農村づくり担当 TEL 023-630-2948

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。